

### 9:00 ロビー集合&出発

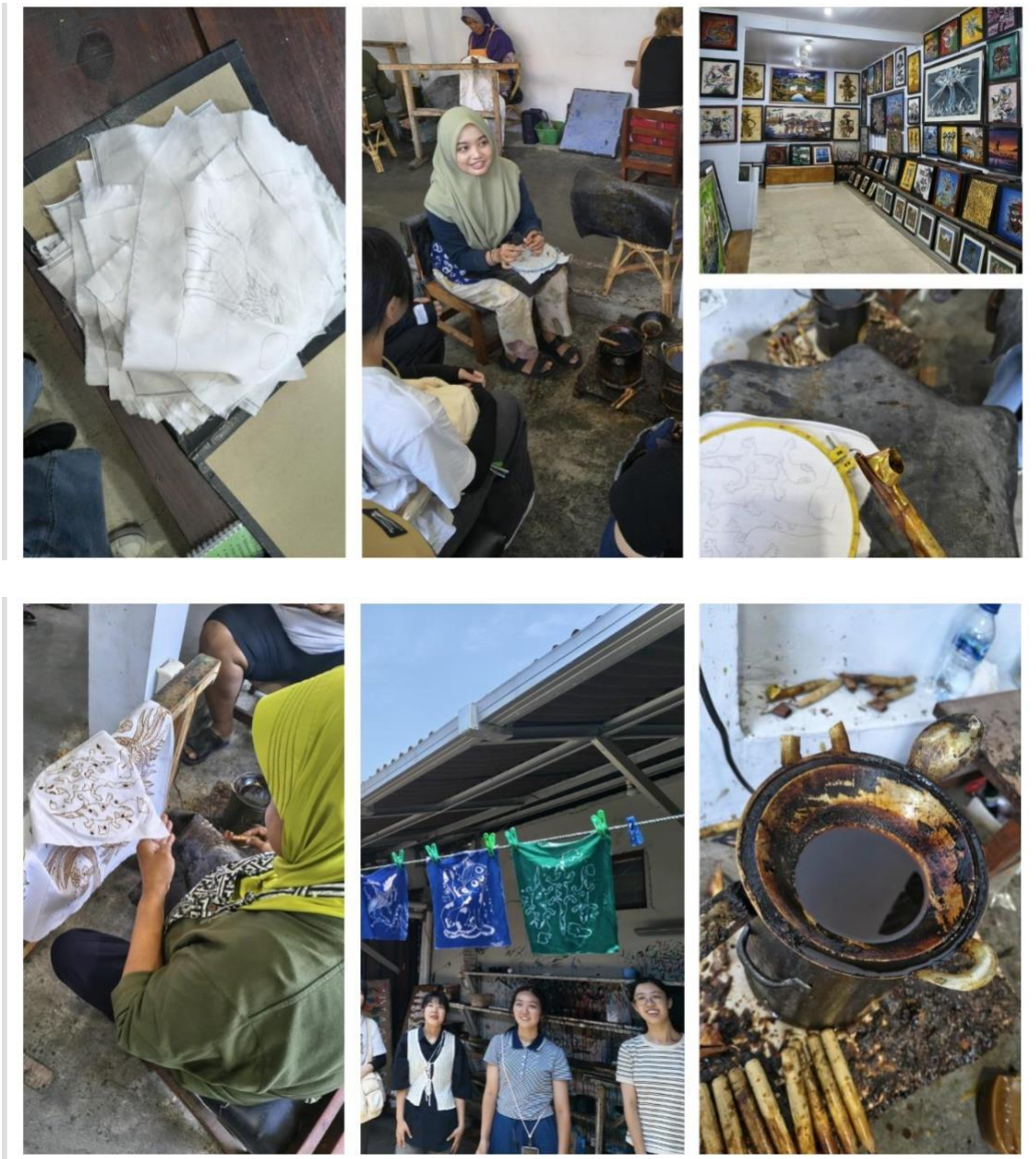
今日は 9:00 にロビー集合で、それまでに各自が朝食、準備を済ませて集合しました。ホテルロビーには、案内してくれるキアさんも来ていて、みんなでバスに乗って出発しました。



### 9:30～11:30 Batik Village

wikipediaによると、Batik はろうけつ染めの特産品であり、ジャワ島のものが特に有名だそうです。2009 年にインドネシアの Batik は無形文化遺産に登録されました。

Batik Village に到着したら、一人ひとりが準備された絵柄の中から好きなものを選び、Batik 体験をしました。最初に基本的なやり方の説明を受け、2、3 人のグループに分かれて 5 分ほど練習した後、自分で選んだ動物や景色の模様をなぞっていきました。常に温められている黒い蠟を専用のペンの受け皿に掬い、ゆっくりと絵柄をなぞることで布に蠟を染み込ませるという作業をしました。ペンの角度に気をつけないと蠟が玉になって落ちてしまい、普通のペンの感覚でやってしまうと失敗してしまうので難しかったです。なぞり終わったら、近くにいた Batik の職人さんに手直しをしてもらい、4 色の中から好きな色を選んで染めました。乾くまでの間は、お土産屋さんを見たり猫と戯れたりしました。出来上がった Batik はそれぞれの個性が光っていてどれも素敵でした。インドネシアの伝統工芸を体験できて、とても貴重な時間でした。



### 12:20～14:00 The Waroeng of Raminten

このレストランの Waroeng は小規模な店、Raminten は創設者の名前だそうです。この名前は本名ではなく、創設者が表舞台に出るときに女装をしてこの名前を名乗ったそうです。企業の経営者だけでなく、芸術家としても知られているそうです。

美味しいインドネシア料理が味わえるお店で、一人ひとりが好きな料理と飲み物を注文していました。私はブロッコリーとキノコの炒め物を食べたのですが、塩コショウに似た味付けでご飯と相性が良く、美味しかったです。他の人は Bakmi goreng やジャスミンティーなどを注文していました。



#### 14:30～16:00 Ullen Sentalu Museum

この博物館は Kaliudang という地域にあり、ムラピ山の南側の 800～1000m に位置しているそうです。ムラピ山は大体海拔 3000m だそうです。インドネシア語で Kali は川、ジャワ語で urang はえびを意味するそうです。18 世紀には、王の狩り場となっており、鹿やキジなどが狩られていたそうです。植民地時代は、たくさんのオランダ人が涼しい場所だから住んでいたといひます。独立してからは観光地になりました。日本が敗戦した後も残っていた一部の日本兵士はこのあたりの洞窟に隠れていたそうです。その洞窟には 1 年前までは入ることができたのですが、噴火による倒壊の可能性があるため立ち入り禁止となっているそうです。2010 年のムラピ山の噴火の時は、この博物館の建物の反対方向に溶岩が流れ出たため無事でした。ムラピ山の頂上への道もありますが、噴火の可能性があるため現在は封鎖されているとのことでした。

お金を払ってガイドの方をつけてもらって施設内を見学しました。この博物館の名前の由来は、Ullèn sentalu 「小さい光でよりよい人生を創る」という意味を持つ言葉から名付けられました。1 部屋目には、ガムランで使う楽器の全ての種類が展示されており、これらを演奏するには最低でも 15 人必要だそうです。ガイドの方によるとガムランは 5 世紀から始まりました。また、インドと中国からの影響を受け、ジャワ島独自の文化と混ざっていきました。ガムランは王室のため、儀式のための音楽で使用されました。

ジョグジャカルタに残っている王室は、家系図をたどると、最初の 3 世代はひとつの王国であったがその後 4 つに分裂したことがわかります。ジョグジャカルタの王室のみ今でも政治的権力を持っています。展示されている王室の写真や絵画からは、右側の方が偉い人が座る位置であること、正装のスタイルはインド、中国、アラビア、オランダの影響を受けていること、フォーマルな場面では攻撃の意思がないことを示すという意味で右手を

左手の下側に組むことなどが読み取れました。Batik の波の模様は権力の象徴であり、王室のみが用いることができる柄でした。

他の部屋には、オランダ語で書かれたいろいろな姫たちの日記が展示してあったり、Batik の変遷や、ジョグジャカルタとスラカルタの Batik の違いについて比較したりできる展示がありました。結婚式や戴冠式など、着る場面による Batik の模様の違いを説明してもらいました。ジョグジャカルタは白が多めで茶色とのコントラストで表現しているのに対し、スラカルタは茶色が多めだという特徴があるそうです。

館内は写真を撮ることができず、ガイドの方に念を押されました。その理由としては、スラカルタにも同じような博物館があり、館内の写真を無断利用したからだといいます。この犯人は判明していますが、スハルトの親戚だったために裁判になっていないそうです。



#### 16:30～18:00 Museum Mini Sisa Hartaku

ムラピ山の噴火について、バギーで移動しながら学びました。4人グループが2つと3人グループが1つでそれぞれ違うバギーに乗り込みました。バギーで山を本格的に登る前にガソリンを入れたのですが、ろうとでタンクから直接注いでいました。

最初に到着した Musium Petilasan MBAH Maridja では、2010年の噴火により被害を受けた家や車、写真などが展示してありました。この家の家主は噴火の犠牲となり亡くなっています。展示されている車の中で逃げようとしたところで噴火してしまい、2人が亡くなったそうです。この家があった集落では、39人がなくなっており、石碑の名前が刻まれています。2010年の噴火は何回かあったそうですが、11月5日が一番大きかったといいます。家の奥の方にはシンボルとして家主の墓が展示されており、遺体は別の場所にあるから集合写真を撮ってあげると言われましたが、断りました。その後も何度か噴火の被害

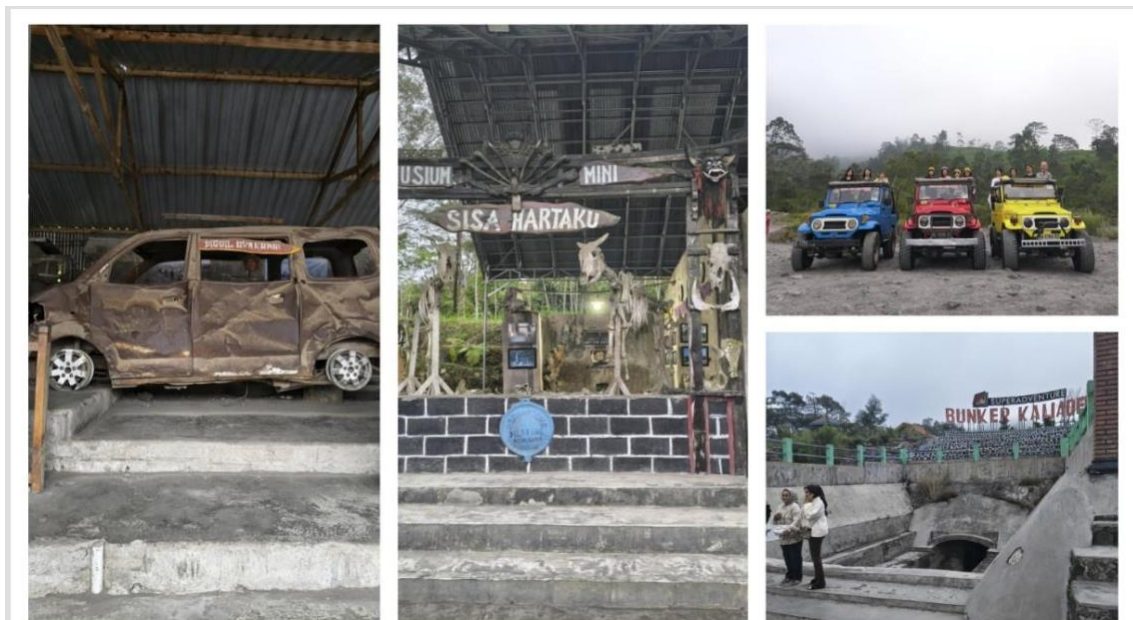
に遭った場所の前などで集合写真を撮ってあげると言われましたが、そこで日本との死生観や宗教観、文化の違いを感じました。

次に到着した防空壕のような人工の洞窟では、2006年の噴火の際に2人亡くなったそうです。ここには30人くらい入れるといわれ、空気孔やトイレもありました。しかし、避難したにもかかわらず、避難所内は暑くなり、1人はトイレ横の水の中、もう1人は扉近くで亡くなっていたそうです。溶岩が入り込んでいたので、遺体を回収するのに3日かかったそうです。このことから、この避難所は避難所として機能しなかったのが2010年は使われず、扉が閉鎖されていましたが、それでも避難所いっぱいに溶岩が入りこんでいたそうです。その溶岩の一部は残されていて見ることができます。

最後に訪れた Museum Mini Sisa Hartaku では、噴火の被害を受けた牛や鶏の骨やスプーンやコップ、村長の家にあったガムランやワヤン、噴火当時の写真が展示されていました。どれだけ噴火の被害が大きかったかを物語る貴重な資料を展示しているという面で意味のあることだと思いますが、ここでも集合写真を撮ってあげると言われたり、噴火で上がった煙の形をワヤンの人形に当てはめた展示があったり、被害を後世に伝えて防災意識を高めようというよりは観光地化しているという印象でした。

バギーの運転手さんによると、2010年の噴火を受けてこの周辺に住むのは制限されているけれど、寝泊まりをしなければ昼間は働くことができるそうです。バギーで山道を進んでいくと、溶岩の痕跡や被害に遭った家が残っているところもありました。また、噴火で犠牲になった人々の墓の前も通りました。

私は、この場所では世界遺産ではなく日本の自然災害との比較について考えましたが、日本とインドネシアの価値観や文化の違いを間近で感じることができました。



## 19:00 ホテル到着

到着後は、夜ご飯を食べたい人だけ 30 分後に集合となり、解散しました。

## まとめ

今日は Batik 体験から始まり、博物館で歴史を学んで、最後はムラピ山の噴火について考えることができました。私の印象では、みんなそれぞれがムラピ山の噴火に対して思うところがあって今日の中で強く記憶に残ったのではないかと思います。今日は 1 日を通して文化や価値観の違いを体感できました。

## 参考文献

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki>